



高森は 自然 溢るる 良かところ

6月23日は「はなしのぶコンサート」

〈午前10時半から。雨天時は国民休暇村セントラルロッジで開催〉

町民憲章

1. 水と緑と土のにおい、いっぱい住みよい町にします。
2. 伝統を重んじ、文化の薫る潤いのある町にします。
3. 老人を大切に、子どもの夢を育て幸せな町にします。
4. 勤労を尊び、産業を振興し活力のある町にします。
5. スポーツに親しみ、心身をきたえ健全な町にします。



4年2組 津留 絵里さん



Children's Corner

わたしたちの作品

高森小学校

習字



4年1組 植田 雄貴さん

未来

高森小 四年 津留 絵里

〔宮崎先生から〕
思いやりと落ち着きのある絵里ちゃんはいつも仲良く元気です。習字が大好きな絵里ちゃん。今回「好きな字を書いて」と言ったらこの字を書いてきてくれました。
「未来」とも夢のあるステキな言葉ですね。これからも未来に向かって大きくはたいて下さいね。

きれいな歯

高森小 四年 植田 ゆうき

〔高橋先生から〕
剣道のけいこに毎日励み、何事にもがんばる雄貴君。今回は「きれいな歯」というバランスのむずかしい字をていねいに書き上げることができました。これからも毎日一本一本ていねいにみがいて、きれいでじょうぶな歯になつてほしいと思います。

撮影快調 子どもたちも頑張っています



ただ今、中山節夫監督の演技指導中。



撮影の合間に、子どもたちの気持ちをほぐすように優しく語りかける堀内正美さん。(堀内さんは阪神大震災ボランティアで活躍。あらためて特集します。)

五月十二日の日曜日、波野村の犬子迫分校で、主役の田村淑子役の鳥飼美帆さんが分校に着任するシーンの撮影がありました。入学式では二人の入学児童を温かくみんな迎え、田村淑子を紹介。その後、分校の杉主任役の堀内正美さんや小坂先生役の小倉一郎さん、保護者の白石勝子役の左時枝さんなど、俳優の皆さんが出演して交歓シーンも撮影されました。

波野村犬子迫分校で着任シーン撮影



阿蘇の文化・自然・情愛を全国に発信
『原野の子ら』撮影現場から



公演後の記念撮影 参加者は高森小、草部南部小、高森中、高森東中、草部中から72名が出演。各校の子どもたちの交流も深まり、友情も芽生えました。



豎琴の舞



ジャックと巨人

この巨人は何と「菜食主義者」という設定。ジャックの母親思いに巨人は感動し、巨人とジャックは仲の良い友達になりました。ジャックを人形を使って表す演出はアイデア物。



観客ぎっしり500人



農夫と商人

●募集中●

海外旅行や研修、ホームステイ（受け入れ含む）など、外国の方との交流の体験やレポート募集しています。連絡ください。広報たかもり 岩下

今回、ドナルド・モグスタットさんは草部の姫野一善さん宅、キンバリー・ケンプファートさんは同じく草部の甲斐一郎さん宅にそれぞれホームステイしました。それぞれのご家庭でのふれあいはもちろん、朝の散歩などの合間に草部地区の皆さんとの積極的な交流も進められました。



ドナルドさんたちがホームステイした姫野さん夫妻（写真左）と甲斐さん夫妻もみんなの笑顔に見入っていました。

ホームステイで国際交流

International Relationship 国際交流

実際の交流から「心のふれあい」を体験 「豊かな表情・表現」を会得

はずかしがらずに堂々と英語劇公演大成功!



Jack and the Beanstalk ジャックと豆の木



「高森の子どもたちは心優しく、素晴らしい力を持っています。この力をいろんな所で発揮して欲しいですね」



牛と交換した豆はメキシコ産。みんなで元気にメキシカンダンスを踊り始める。



ジャック役は3人で交替



心のふれあいを目的として

四月二十七日の土曜日、午後三時半から、高森中学校体育館で英語劇「ジャックと豆の木」に約五百人ものたくさんの入場者があり、公演は大成功をおさめました。

これは昨年から町が取り組んでいる国際交流事業で、今年もアメリカのミズーラ子ども劇場から、男優ドナルド・モグスタットさん（昨年の「ピノキオ」公演でも来日）と今年初めて来日した女優キンバリー・ケンプファートさんの英語劇指導の中で、町の小・中学生たちが、外国の人と直接ふれあうことにより、相互に理解し合う、真の国際人としての心を学ぶことを第一の目的としたものです。



サーカスを見たことが無いというジャックに魔法使いがサーカスを見せる。



ピアノ演奏は今年も荒牧愛さんが担当

合同練習は正味五日間と短かったにもかかわらず、みんな英語のセリフを一生懸命覚え、本番でははずかしがらずに大きな声で堂々と熱演していました。

この成功には子どもたちの努力はもちろん、ドナルドさんたちの体全体での表現方法と豊かな表情に主眼を置いた指導。そして一人の来日前に、各学校の英語の先生方の子どもたちへの指導など全面的な協力をいただいたことを特筆したいと思います。

こういった中から、子どもたちはドナルドさんたちとの「心のふれあい」による感動を得、公演後の交歓会でも二人との別れと一度だけの公演を惜しんでいました。

農作業の安全性を高めるために 農業機械研修生募集

最近の農業機械の大型化、高性能化に対応して、効率の利用と農作業の安全性を高めるため、一般を対象として農業大学校で次のとおり農業機械研修が開催されます。

■研修の種類と受講資格

1. 大型特殊 普通免許取得者または、大型特殊（農耕車）の学科試験合格者。（視力が両眼で0.7以上かつ一眼でそれぞれ0.3以上の者）
2. けん引 大特（農耕車）免許取得者であること。（視力が両眼で0.8以上かつ一眼でそれぞれ0.5以上を有し、深視力が平均誤差2 cm以内であること）

■経費 3,000円

■研修日

1. 大特研修 7月16日～19日 11月18日～22日 12月10日～13日 1月28日～31日
2. けん引研修 9月17日～20日

■研修申込 上記研修日の開講日10日前までに農業大学校に書くように、農業改良普及センターに研修受講申込書を提出すること。

視力、携行品などの詳細と研修受講申込書受領は、阿蘇農業改良普及センターまでどうぞ。
〒869-26 阿蘇郡一の宮町宮地2402 県総合庁舎内 ●0967-22-1111 内線353番



4月24日 南阿蘇家畜市場

第38回 優良子牛 保留奨励品評会

自慢の子牛が勢揃い

町では、農家の畜産意欲向上を図り、畜産の振興を推進することを目的にして、今年もこの品評会を開催しました。

この日、農家が繁殖牛にするために大事に育てている雌牛92頭（若齢49頭、壮齢43頭）の自慢の子牛と、黒毛の和牛も出され、資質、体形、発育などについて厳しい審査が行われました。審査結果は次のとおり。（敬称略）

【若齢の部】

- ▼優等賞 後藤保幸（つるしげ一）
- ▼一等賞 田上幸人（なみはな）、宇藤朋喜（第六はな）、後藤末義（たけまる）、児玉邦昭（ひので）、川部喜一（第五なみ）

【壮齢の部】

- ▼優等賞 荒牧信也（第一いずみ）
- ▼一等賞 児玉国広（くにさくら）、本田琢雄（みつやま）、首藤金光（みつながま）、住吉栄男（みつさかえ）、白石政雄（まゆき）

六月は土砂災害防止月間

災害の時期到来

土砂災害に十分注意しましょう



「みち」に関するあなたの提言 生かします

建設省の諮問機関である道路審議会では、「二十一世紀のまちを考える委員会」（森地茂委員長 東京大学教授）を設け、これからの道づくりについて広く皆さんの意見、提案を求めていますのでお寄せください。

▼提出先
〒105 東京都港区虎の門2の8の10
第15森ビル内「二十一世紀のまちを考える委員会」事務局
FAX 0120・62・6661

なお、渋滞、高速道路料金、身の回りの狭い道など重要なテーマを紹介し、それぞれのテーマについて様々な考え方が紹介されている「キックオフ・レポート」を希望者に差し上げています。お申込みください。

▼申込先
Tel 096・383・1111
熊本県庁 土木部 道路建設課 企画係

「道」に関する意見をお寄せください



無謀運転 絶対やめましょう！

シートベルトは本当に命綱です

無謀運転はしてはなりません。自分の手足で身体を支えられるのは時速7kmまで。もしも60kmで衝突したらシートベルトに2tもの衝撃がかかると言われてるように、車窓にぶつかったり、車外に放り出されたりして命に関わることは必至です。

誰のためでもありません。あなたとあなたの家族を守るシートベルト。まさしく「命綱」であることを忘れてはなりません。



緊急報告！ 五月の連休中 死亡事故続発

四月末から五月六日までの連休中に県内では死亡事故が連続しました。この期間内の交通事故は三百四十九件。その内死亡者が十二名、ケガ人が四百七十八人にもなっています。その内死亡者の中にはシートベルトを着用していれば助かったと思われるものが多く、県警や県、町ではシートベルト着用推進を重点的に指導・呼びかけをしていくことにしました。

写真の者は、オウム真理教関係の指名手配者です。偽名や変装をして貸家、アパート、別荘などに潜伏しているものと思われる。どのような情報でも結構ですのでお寄せください。

高森警察署長

 高橋克也 37歳 173cm 位 中肉	 平田 信 30歳 180cm 位 髪が濃い	 松下悟史 28歳 174cm 位
 林 泰男 37歳 178cm 位 面長、中肉	 北村浩一 27歳 170cm 位 やせ型	 菊池直子 23歳 159cm 位
 八木澤善次 33歳 170cm 位		

オウム真理教関係 指名手配 捜査・逮捕にご協力を

オウム24時間
お心あたりの方は…今すぐ110番か、フリーダイヤル0120-006024番へご一報ください



この他、副団長、本部員四名の新・再任命と新分団長十名、新部長に十二名、新班長二十三名、団員八名の階級変更もあり、本年度の高森町消防団々員数は三百四十五名となりました。

機動分団	相馬 勝徳
二分団一部	後藤 光輝
二分団二部	田代 裕二
三分団一部	今村 英樹
三分団二部	今村 知博
五分団	眞原 友紀
	大塚 孝倫
	甲斐 祥博
	桐原 誠
	榎木野秀徳
六分団	渡辺昇次郎
九分団	住吉 忠大
	宇藤 将敏
十分団二部	野尻 規康

新入団員紹介

今年も高森町消防団の新入団員辞令交付式が五月三日に林業総合センターで行われました。式には今村町長や塚本団長をはじめ、町内十四の全分団から分団長など百名が出席。塚本団長は「消防団活動の使命に誇りを持って頑張ってください」と挨拶。新入団員十四名の皆さんは、緊張の面持ちで辞令を受け取り、宣誓書を読み上げていました。

高森町消防団 辞令交付式

地域を守る真のボランティア…消防団活動にご理解とご協力を

皆さんのお力添えを 団員募集中

本町に限らず、過疎化による人口の減少は消防団員の確保にも苦慮するようになってきました。消防団活動は「我がまち、我が家」をみんなで守ろうという助け合いの精神で地域に密着して発展してきました。「もし火災が起きたら…もし災害が発生したら」という危機感の上からも大切なことです。皆さんのご理解とご協力を宜しくお願いします。町では団員を募集しています。詳しいことはおたずねください。

高森町役場 行政係



災害特集 DISASTER RELIEF PLAN

梅雨時期到来 災害発生に注意

数年ごとの大災害発生 災害発生を予測して 出来る限りの対応を

本町では毎年、梅雨時期に道路や農地の災害が発生しており、数年に一度は大きな被害がでています。近年では昭和六十三年の死者三名を出した人家災害、平成二年の大規模な山林、農地、道路崩壊、平成五年の人家床上浸水など数年ごとに大きな災害が発生しています。

これらはいずれも梅雨前線による集中豪雨が原因となっており、梅雨時期となる今月から来月までは特に注意が必要です。注意報や警報など、天気予報に充分注意し、出来る限りの対応をしておきましょう。

災害が発生したときの対応については、昨年の本誌六月号で詳しくお知らせしていますのでご覧ください。

特に避難場所について各ご家庭でご確認をお願いします。

防災と災害対応に ボランティア活動を生かす

情報の収集と伝達・支援協力・救急医療などでボランティア活動は欠かせないもの その力を積極的に活用する

地域の防災と災害発生時の対応は、行政、警察、消防だけの力では足りません。

昨年の阪神大震災でも情報の収集、伝達や救急介護、支援物資運搬などで、多くのボランティア活動がありました。

これまでも町防災計画について、町の多くの方々のご理解とご協力をいただいていたが、今後も奉仕の精神で活動される団体などを積極的に育成、活用することにした。「いざという時の対応」…皆さんのお力添えを宜しくお願いします。

アマチュア無線家の奉仕団体 無線救護隊活動を 町防災計画に活用

災害時に最も重要なことは「情報を素早く把握し、適切に判断して如何に素早く伝えるか」ということです。

このため町では防災無線の整備を進めてきました。また情報は複合的に活用することによりその威力を発揮するものであるとの認識に立っていました。

このほど町内のアマチュア無線家の団体の快いご理解により、町



防災計画に取り入れることになり、五月十三日、活動の詳細について打ち合わせを行いました。

この団体は熊本県無線救護隊・南阿蘇中隊（矢野貴政中隊長以下四十一名）で、災害時の情報伝達を主として赤十字の自主的な奉仕の精神で活動されてきたもので、県下一円で活動されている日赤奉仕団の一つです。

五月十三日の打ち合わせでは、災害発生が予測される場合の対応や災害が発生したときの対応など、情報面での有効な活用について、具体的な検討が行われていました。

矢野中隊長は「当隊は昭和六十一年から自主的に活動してきました。このほど町の防災計画にも加えていただき、その責任の重さを痛感しています。隊員みんなの和と協力で町の防災と災害対応に貢献したいですね。また隊員数の拡大を目的に、アマチュア無線家の入隊希望者を募集中です。」と話されていました。

連絡先 熊本県無線救護隊 南阿蘇中隊事務局 野尻勝秀 Tel 2・2027（夜間のみ）



危険です タコ足配線！ 夏間近 扇風機・クーラーの点検を！

これから梅雨時期、夏場をひかえ、暑苦しくジメジメとした季節になりますね。扇風機やクーラーが活躍する季節です。皆さんのご家庭では電気器具は正しく使っておられますか？ 便利さに慣れて、火の恐さを忘れないようにしましょう。

- ◆タコ足配線はありませんか？…これは危険な使い方の代表です。
- ◆電気器具のスイッチを入り切りするのに、コンセントプラグを抜き差ししていませんか？…こんなことをしていると、コンセントプラグの接触が悪くなり、発熱発火の危険があります。
- ◆スイッチや電気器具内部にほこりがたまっていませんか？…湿気で通電状態となり、発火する危険があります。



電気の流れは目で見ることはできません。電気器具が点いたり切れたりするときや、プラグやコードが熱くなる時は電気屋さんに点検してもらいましょう。

阿蘇広域行政消防本部南部分署 Tel 2・9034

紹介します 北海道 赤平市



沿革

明治24年熊本県人鶴林恵熊らが入植してこの地を開く。明治32年の船運、大正2年の下富良野線の鉄道開通とともに沿岸の炭田が急速に開発され炭鉱のまちとして発展した。大正11年歌志内村から分村し、赤平村誕生。昭和18年町制施行し石炭産業の発展とともに昭和29年赤平市となった。

地勢

北海道のほぼ中央、空知地方の中部に位置。(中空知広域市町村圏5市5町)市の北と南は丘陵地帯で中心を空知川が流れている。内陸のため四季を通じて風が弱く気候も温暖で、住みやすく農業にも適し作柄も安定している。

面積

129.88km² (東西約14km、南北約19km)

人口

男8304人、女9210人、計17514人、世帯数7532 (平成8年3月末日現在)



写真左から鶴林積さん、奥さんのハルさん、河野敏彦さん、奥さんのシズエさん、敏彦さんの本家にあたる(松橋町)の河野ノブ子さん。
鶴林積さんご夫妻の心のこもった手料理に舌づつみを打ち、鶴林恵熊一家が眺めたであろう周囲の景色を見ながら談笑。
再会を誓い合っただけでは、河野シズエさんたちは何度も振り返り、また積さんご夫妻も去って行く車が見えなくなっても大きく手を振られている光景が強く印象に残りました。

恵熊 明治二十三年六月
札幌郡篠路村に入る
空知川右岸に農耕適地を発見
明治二十三年、六人の家族から一足遅れて恵熊は北海道へと渡った。この年、同県人球磨郡出身の西尾徳太郎と共に北上し、歌志内から山越えして空知川を筏で渡って農耕適地を発見した。この地が現在の赤平市である。翌年明治二十四年六月、父丑太を含む六名で再びこの地を訪れ、恵熊を中心にして、それぞれの夢を抱いて畝を入れ開墾が進められた。この開墾に妹ミツヨが手伝いに行った時のことがミツヨの手記に「まだ十一歳であった私も兄を手伝い、



恵熊の妹の高木ミツヨさん
明治16年1月1日
昭和57年12月7日
(享年百一歳)

当時の開拓はこのように個人開拓も普通であったのだが、それは北海道庁が実測を行っていない場合の話で、実は恵熊たちが発見したこの同じ年に、北海道庁が空知川右岸道路建設のために実測調査に訪れ、併せて賃下げ地の大まかな区画割りが行われていたのを知らなかったことが恵熊たちには不運なことであった。

最終的に賃下げ申請をして認められず後々訴訟に発展するものの敗訴し、苦勞して拓いた土地は結局は自分のものにならず、場所を移って新たに開墾したもの、明治三十一年の大水害で流されたりと苦難続きであったが、赤平市開拓発祥の地、百戸地区の発展に多大なる貢献をしてその開拓精神が同市の人々に広く知られることとなった。
後年、対岸の下平岸二十三番地に移り住み、妻タミとの間に四人の娘が生まれているが、この後のことは不明。大正十年一月十五日、五十九歳でこの地で亡くなっている。
一方、ミツヨは水害の翌年の明治三十二年に札幌の屯田に帰り、翌年石川県出身の高木三郎と結婚し八人の子どもに恵まれた。生涯を開拓に尽くし、屯田の母として広く親しまれ、惜しまれながら、昭和五十七年十二月七日、百一歳でこの世を去っている。
鶴林家の皆様のご冥福を心からお祈りします。

「町の先人の足跡をたどって」情報をお寄せください

高森の名を高めた
先人の足跡をたどる

北海道赤平市開拓の祖は高森出身 北海道からお客様

「赤平市開拓の祖 鶴林恵熊」「屯田の母 高木ミツヨ」の故郷をたずねて

この後、同市では多角的に調査研究され、現在の赤平市開拓のために最初に足を踏み入れたのは本町出身の鶴林恵熊と球磨郡出身の西尾徳太郎であるとして、同市の開拓創始史にも明記されています。



昭和61年10月、佐々木赤平市長(右端)が調査に訪れたときの写真

河野さんたちは、「母シズエと恵熊たちが生まれ育ったこの地に訪れたいと思っていた夢が叶ってこんな幸せなことはありません。私たちの共通の先祖である鶴林積さんのご仏前に百八年ぶりの再会をご報告したいと思います。」と感激いっぱい。鶴林積さんご夫妻と交歓の時を過ごされていました。

いずれにしても、北海道赤平市と本町とのつながりが明白となり、赤平市では同市開拓の先駆者としてその名前は広く知られているところで、その開拓精神を「ふるさと志向」と「地域おこし」に生かすまちづくりが進められており、本町出身の鶴林恵熊一家が遠い北海道の地で様々な苦勞の中にも、素晴らしい功績を残したことを、私たちは誇りに思いたいものです。
この鶴林恵熊は六人兄弟の長兄であり、妹のミツヨさん(昭和五十七年十二月逝去)の実娘である河野シズエさん(北海道常呂(ところ)郡留辺蘂(べしべ)町在住)が、ご主人、ご親戚と共に五月十七日、鶴林積さん宅を訪問されました。

昭和六十一年十月八日、北海道赤平(あかびら)市の当時の市長である佐々木肇氏が来町されています。
これは赤平市民の「ふるさと志向」をさらに深め、「まちおこし」にもつなげようと、赤平開拓創始史を編纂するため、同市開拓者の一人に名前を連ねている鶴林恵熊(えぐま)の出身地が本町尾下出身(現在の鶴林積さん宅)であるときとめられたことから、その確認と詳細なる調査を目的としたものでした。

弟芳馬たち、明治二十二年屯田兵として北海道へ渡る
恵熊は丑太、母サカの長男として当時の尾下村一四九五番地(現高森町大字尾下一四九五番地)に元治元年六月二十八日に生まれた。祖父は亀太、祖母はミキといひ、兄弟は姉にテイとタメ、下に弟の芳馬、勝久、妹のミツヨ、弟の末久がいた。
広い土地を求めて、まず北海道へ渡ったのは父母と芳馬、勝久、ミツヨ、末久であり、これは明治二十二年七月十五日の芳馬(明治二年五月十八日出生)の屯田兵入隊に伴ったものであった。この六人が入植地篠路兵村(現札幌市北区屯田町)にたどり着くまでのことが妹ミツヨの手記

鶴林恵熊一家の北海道開拓談 あらまし



赤平市開拓顕彰記念碑

「この時私は六歳。私たちは船で小樽に入り一泊した後、琴似(現札幌市西区)に向けて炭車に乗り、何本ものトンネルをくぐりぬけ、スズで顔が真っ黒になりながらやつと琴似に着きました。そこから私たちは、他の屯田兵の長い行列に入り、笹を刈っただけの荒道をみんなで歩いて行きました。幼い私も歯を食いしばって一生懸命歩きました。(中略)途中の炊き出しの熱いお茶でホッとしたことを覚えていますが、こうやってやつとの思いで三番通りの兵屋にたどり着きました。」
芳馬は兵役で精一杯。丑太とサカが中心となり、子どもであったミツヨたちも開墾に汗して精を出す生活が続いた。

私たちの町の先人が本町はもちろん、日本全国や外国で、町の名を高めた素晴らしい貢献話など、偉大な足跡を残した人のお話しをお寄せください。支え合い、認め合う精神で「高森の人」を掘り起こし、みんなで誇り合いたいものです。

資料・情報提供者の方々(敬称略)
北海道赤平市広報課、同市記念誌編集委員会、高木ミツヨ(故人)、河野シズエ、鶴林積、鶴林豊成
ありがとうございました。

家庭教育

子どもたちの
すばらしい
心と身体を
育むために

Family
Moral
Education



こども育児相談

問 子どもの小遣いはいくら位が適当でしょうか？

まずはお金の意味を教える

答 子どもに小遣いをどう与えたら良いか、いくらくらいが適当かと本当に迷うものですね。

これはそれぞれのご家庭で考えるべきことですが、自分の家だけの独自性を貫くことも実際には難しく、周りに同調することが多いようです。ところでお金は私たちの生活にはなくてはならないもので、品物を買うときだけでなく、バスに乗るとき、病院にかかったときなど、いずれも

お金が必要です。まずそのお金は親が働いて得たものであることをしっかりと教えましょう。次に値段と品質の関係を教えます。例えば鉛筆の値段の違いはその良さの違いであると分かるはずですが、結局、金額は学年の違いもありますので、友達の様子を聞いて決めるということが多いようですが、額を決めたら使用の方にあまり注文をつける自分の欲しい物を手に入れるために盗みをする例もあります。「いらぬ物を買って！」とガミガミ言わず様子を見ましょう。「しまった」と、子どもはそれなりに学び、後悔しているものです。そんな様子が見えたときに、軽く注意すればいいのです。

無計画にお金を使っているのもその子どもにはいい経験です。また目的もなく、ただ貯金させるのもよくありません。私たちが分かっている、お金の意味、価値、よい使い方を子どもは知らないのですから、しっかりと教えてやることから始めれば、子どもはそれなりにしっかりと考えるものです。託摩武俊著「のびのび子育て」から

◆特に三歳までの間は、親や家族は子どもに対して、スキンシップで愛情を注ぎ、適正、的確なしつけをしましょう。

◆時間は短くても、子どもとの対話を欠かさず続けましょう。

子育てサークル 風まるキッズ 活動中

子育ての悩み話し合しましょう
毎週火曜日10時からお昼まで
高森町中央公民館(昭和)
おたずねは保健衛生係までどうぞ

町の「子育て教室」が、子育てサークル「風まるキッズ」というお母さんたちの自主活動に結びつきました。
子育てをむずかしく考える、悩みを一人で抱え込んでしまう心配があります。
子どもと楽しく遊びながら、日頃の子育ての悩みを、みんなが気軽に話し合ってみましょう。

社会福祉協議会だより

平成七年度会費
百二十四万六千円集まる

ご協力ありがとうございました

皆さんのご家庭、職場などに協力をお願いをした平成七年度の会費が百二十四万六千五百円集まりました。

今年も社会福祉面の向上をめざして大切に利用させていただきまます。この主な内訳は次のとおりです。ありがとうございます。

- 一般会費 (五百円) 一八四五世帯
- 賛助会費 (千円以上) 九十二万二千五百円
- 三三一世帯 三十七万七千円
- 団体会費 (二千円) 一万二千円
- 四施設 一万二千円
- 特別会費 (五千円) 三万五千円
- 七団体 三万五千円
- 総計 百三十四万六千五百円



共同募金運動 50 周年を記念して… 車椅子をいただきました

5月8日、熊本県共同募金会から車椅子一台をいただきました。これは共同募金運動が今年で50周年を迎えるのを記念して、県下の市町村社会福祉協議会に贈られたものです。

この車椅子は中央公民館に置いて大切に利用させていただきます。

特集 ゴミ問題

■ゴミ収集に関する詳しいことは…
役場保健衛生係までどうぞ。
電話(2)1111 内線128番

ゴミで野山を汚さないで!

山や川が…

そして地球が泣いています

絶対やめてください

「ゴミの不法投棄

「ゴミを捨てる現場を見られた方は通報して下さい」

一宮土木事務所 (三三) 一一一一
高森警察署 (六二) 〇二一〇

ゴミは出す人の人柄です。
川の姿は住む人の姿です。
阿蘇の自然を守るのはあなたです。

こんなにたくさんのゴミ…各家庭で減らす工夫も大切です



ゴミの不法投棄を見かけられたら保健衛生係まで連絡下さい

「自分の目の前がきれいになればそれで良い」という考えはあらためましょう

五月十五日、町では本町内の山地、河川などで、不法に捨てられたゴミ回収を行いました。回収にはボランティアの方々やクリーンセンター職員、役場職員、そして今村町長も参加し、無惨に捨てられたゴミを一つひとつ分別しながら回収しました。捨てられたゴミを見ると、クリーンセンターで処理できる物が多く、ビニールハウス材料やバッテリー、タイヤなどの産業廃棄物も見かけました。

今回の回収作業は、梅雨時期を前にして、山と川が汚れるのを防ぐため、いち早く対応したもので、完全回収まで多くの手間暇がかかりました。

ゴミの不法投棄禁止に関する法律は昭和四十五年十二月に施行された「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(法律第一三七号)で、不法投棄者には投棄物回収の指示や、六カ月以下の懲役または五十万円以下の罰金が罰則として設けられています。町・保健所・県警では不法投棄が無くなりなことを憂慮し、不法投棄者には今後も厳しい対応を行うことにしています。

人権擁護委員制度をご存知ですか?

六月一日は人権擁護委員法が施行された日

昭和二十三年にまず政令に基づいて人権擁護委員制度が設けられ、翌二十四年六月一日に人権擁護委員法が施行され、国民の基本的な人権を擁護し見守る、いわば民間人による人権の番人の機関が誕生したのです。これが、人権擁護委員制度の始まりです。いじめ、体罰、不登校児など、子どもをめぐる人権問題が大きな社会問題となつています。次代を担う子どもたちの人権を積極的に擁護することが必要です。

そこで全国人権擁護委員連合会では、「子どもの人権を守ろう。」「いじめ」をしない・させない・見逃さない」を啓発活動重点目標に掲げ、積極的な啓発活動を展開しています。

人権は人間が平和に生きていくうえで、最も大切な権利です。自分だけでなく、あなたもみんな人権が尊重されなければなりません。

国の内外を問わず、人々がお互いに人権を守ることによって明るい社会をつくるのが私たちの願いです。

高森町の人権擁護委員さん

相談は無料で、秘密は守られます。お気軽にご相談ください。(敬称略)

- 児玉民江(高森) 2-11074
- 岩下敬公(色見) 2-11316
- 工藤忠義(永野原) 4-0020
- 馬原清二(津留) 5-0003



四半的弓道 高森協会 会員募集中

技の鍛練に通じながら、心を磨く、四半的弓道に挑戦してみませんか？
 会員は90歳から高校1年生の女子までの28名。幅広い年齢層ながら、和気あいあいと楽しく練習しています。まずはお気軽にお遊びにお越しください。
 (毎月第2土曜日 高森・草部の合同練習を旧高森保育園跡地の道場で行っています)
 ■連絡先 会長 工藤 強 Tel 4-0147 までお気軽にどうぞ。

射は礼にあり、礼の根本は敬にして且つ知なり。
 弓も矢も公正無私なりとせば、弓道精神の階段は
 的に叱られながら昇るべきなり。
 弓道は粗暴を許さず一気の強引も許さず、魂の
 落ち着き場所を静中に求め、無心の中に放つにあり。

四半的でも何でも、精神を一つに統一させることができれば何でも成し遂げることができます。私もこれからまだまだ鍛練を積み重ねて色々な試合に出てみたいですね。
 四半的が縁で県内はもろろん各地にたくさんの友人ができましたし、健康作りにもつながる本当に良いスポーツだと思えます。

精神統一は全てに通じる
 四半的でも何でも、精神を一つに統一させることができれば何でも成し遂げることができます。私もこれからまだまだ鍛練を積み重ねて色々な試合に出てみたいですね。
 四半的が縁で県内はもろろん各地にたくさんの友人ができましたし、健康作りにもつながる本当に良いスポーツだと思えます。

人としての落ち着き
 武道はすべて礼に始まり礼に終わります。これは人を敬う尊重する心であり、特に日本人の文化とも言えるこういった精神が段々と薄れていく状況を見ると心が痛みますね。
 子どもたちも落ち着きがなくなっている気がしますし、「遊ぶ時は遊ぶ」「学ぶ時は学ぶ」といったケジメも感じられなくなりました。こういった状況の打破には学校や家庭、社会が一体となって早急に取り組むべきだと思います。武道が全てとは言いませんが、こういった問題解決への一助になると思います。



四半的で八段位取得

小崎 信幸さん 大字草部

大字草部・灰原の小崎信幸さん(満71歳)が今年一月に四半的弓道で八段位を取得されました。八段位は日頃の心と技の鍛練が欠かせないもので、県内でも数少なく、名誉段位を除いて最高段位を取得されたことになります。小崎さんは15年前に町教育委員会が健康・体育普及事業としてすすめていた頃に四半的を始められたもので、草部や高森地区などで四半的の普及に力を注ぎ、現在も「四半的弓道・高森協会」の副会長としても指導・育成面に貢献されています。
 小崎さんは「人としての落ち着き」にも通じる四半的の素晴らしさを多くの人に伝えたいと話されていました。



無

の境地

四半的弓道を始めたきっかけは？

私は若い頃から特にスポーツをしていた訳ではありませんが、町の教育委員会のすすめで、秋山信一さん、谷川守さんのご指導を受けながら、草部地域のみなさんといっしょに始めました。

当たるようで当たらない

最終的に的に矢が当たればいいわけですが、やればやるほどに奥深さを感じましたね。「邪心」があれば絶対に当たらないと言います。

武道は何でもそうでしょうが、やはり「心」：精神面と技術面が一致して熟練されなければならぬと言いか、やっぱり精神面の方が大きな比率を占めていると思いますね。「精神統一」と「無の境地」と言いますが、言葉での表現は難しいですが、四五年して何となく分かったかという感じでしょうか。

四半的 誌上入門

四半的弓道の由来

遠く戦国の世(永禄十一年)に現在の日南市にあった(飯肥(おび)城)での戦いで、付近の農民たちが竹作りの弓矢をもって浮舟城主の伊東義祐公の軍に加勢し、勝利に大きく寄与したことにより、伊東藩内で一般農民間に娯楽用として弓矢を持つことが許可されたことが起源と言われている。

四半的の語源

弓と矢の距離：射場の距離が四間半(約8m20cm)、弓、矢ともに四尺五寸(約1m36cm)、的の直径が四寸五分(約13.6cm)と全部四と半なので四半的と呼ばれるようになった。

射法のあらまし

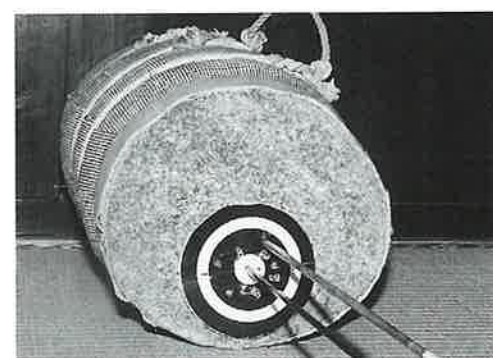
「射は礼に始まり、礼に終わる」と言われるように、弓矢を打つ前後、常に至誠、礼

節に徹し、品位と風格を調和させた美を創造する。
 射法(概略)
 次の動作を一つの流れとして行う。

一、正座 二、胴造り(上体を安定させる) 三、弓構え(取懸け・手の内・物見) 四、打ち起こし(弓を引く前の事前動作) 五、引き分け(弓の弦(糸)を引く動作) 六、ねらい(邪心を取り無心であること) 七、離れ(全身全霊を矢に集中して弓を離す：発射する) 八、残心(心)(矢を放った後も2〜3秒姿勢をとどめる)

四半的の競技

個人競技と団体競技がある。個人競技は一般(64才以下)と高齢者(65才以上)があり、団体競技は五人一組で編成する。いずれも一回に十射し、交替で三回行い計三十射する。



「たかもりパワー人間」大募集

産業(観光、農、林、商、工業など)、仕事、福祉、ボランティア、地域おこし、環境保護、動植物愛護、教育(家庭、社会、学校、保護者会) 国際交流、文化、芸術、スポーツ、趣味、特技などなど...やる気とパワーで頑張っている方の情報をお寄せください。(年齢は問いません。高森在住者が高森出身者に限ります。)

四半的弓道 弓具の名称

